

評価者	環境部長	能條 裕子
-----	------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちなの姿

総合計画上の位置付け	分野	生活環境	施策の方針	次代に向けたエネルギー・環境対策の推進
目標とすべきまちなの姿	省エネルギーの推進と再生可能エネルギー等導入に向けた理解が広まり、市民力、地域力を発揮した取組が進捗し、歴史と環境が調和した循環型社会システムが構築されています。本市の住宅、事業所、公共施設では、太陽光、太陽熱、燃料電池などの再生可能エネルギー等の普及が進んでいます。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	令和元年度(2019年度)	31.4%	平成30年度(2018年度)	31.7%	平成29年度(2017年度)	31.3%
	平成28年度(2016年度)	29.1%	平成27年度(2015年度)	33.6%		

(2) 妥当性

**令和元年度(2019年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.8%	0.8%	0.6%
ちょうどよい	0.8%	33.6%	1.6%
効果不十分	2.2%	5.6%	16.6%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**平成30年度(2018年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.7%	0.5%	0.3%
ちょうどよい	1.3%	29.3%	1.7%
効果不十分	4.8%	4.5%	18.0%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**平成29年度(2017年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	2.3%	0.5%	0.5%
ちょうどよい	1.2%	33.4%	2.5%
効果不十分	2.5%	4.4%	17.4%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**平成28年度(2016年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.1%	0.9%	0.2%
ちょうどよい	1.4%	33.0%	1.8%
効果不十分	3.6%	5.5%	18.1%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**平成27年度(2015年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.6%	0.4%	0.0%
ちょうどよい	0.6%	28.0%	1.4%
効果不十分	4.1%	4.7%	19.5%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**(3) 今後の進め方**

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
令和元年度(2019年度)	25.6%	32.6%	4.2%	37.6%
平成30年度(2018年度)	26.6%	28.1%	7.6%	37.7%
平成29年度(2017年度)	27.6%	30.6%	6.2%	35.7%
平成28年度(2016年度)	27.9%	33.0%	4.6%	34.5%
平成27年度(2015年度)	28.8%	26.5%	5.4%	39.3%

**2 内部評価**

**(1) 令和元年度(2019年度)の目標**

- ①国の「地球温暖化対策計画」における温室効果ガス削減目標「地方公共団体は2030年度に2013年度比で約40%削減」を達成するため、「鎌倉市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)」を策定するとともに省エネ機器の導入を図る。(環境-02)  
 ②鎌倉市の地域特性に適した、エネルギーの地産地消について事業化を進める。(環境-02)

**(2) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性**

- ①鎌倉市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)の策定及び計画の進行管理を行うことは、循環型社会システムの構築に寄与する。(環境-02)  
 ②エネルギーの地産地消は地域資源を持続可能な形で活用するものであり、循環型社会システムの構築の重要な要素となる。(環境-02)

**(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)**

評価対象事業名		決算値(千円)		職員数(人)		法定受託 事務	今後の 方向性	
整理番号	事業名	令和元年度 (2019年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元 年度 (2019 年度)	平成 30年度 (2018年 度)		事業内容	予算規模
環境-02	環境基本計画等推進事業	18,162	18,370	3.5	3.5	無	a	B

**(4) 主な実施内容**

- 【主な実施内容】**  
 ①国の「地球温暖化対策計画」における温室効果ガス削減目標「地方公共団体は2030年度に2013年度比で約40%削減」を達成するため、「鎌倉市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)」を策定し、省エネ機器の導入を図った。(環境-02)  
 ①気候非常事態宣言及びゼロカーボンシティの表明を行った。(環境 - 02)  
 ②エネルギーの地産地消について、堆肥化している植木剪定材のエネルギー利用を調整した。(環境-02)
- 【実施できなかった事業とその理由等】**

(5) 令和元年度(2019年度)の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切 □ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切 □ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切 □ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切 □ 要改善

**<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>**

- ・「鎌倉市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)」を策定したことで、市役所の温室効果ガスの削減の方法等を示し、市施設の一部蛍光灯をLED電灯にすることで省エネルギー化、温室効果ガス排出量の削減を図ることができた。今後も市施設の新設、改修の際には、省エネルギー機器や再生可能エネルギー設備等の導入が図れるよう関連課と調整を行っていく。(環境-02)
- ・エネルギーの地産地消については植木選定材を含め、様々な実施策を引き続き検討する。(環境-02)

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	環境-02	事業名	環境基本計画等推進事業					単位	%	指標の傾向	備考
指標の内容	市役所における紙類・文具類調達に対するグリーン適合品調達率					単位	%	指標の傾向	↘	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	9月頃実績値を確定予定			
本市環境マネジメントにおいて、職員がグリーン購入適合品を意識することは重要であるため	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0				
	実績値	94.4	94.3	85.8	78.2	75.3					
	達成率	94.4%	94.3%	85.8%	78.2%	75.3%					

  

整理番号	環境-02	事業名	環境基本計画等推進事業					単位	千円	指標の傾向	備考
指標の内容	住宅用再生可能エネルギー・省エネ機器等設置費補助金の執行率					単位	千円	指標の傾向	↗	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)				
再生可能エネルギー等の有効利用の促進と低炭素社会の実現に寄与する補助金の活用割合で事業の進捗状況を測るため	目標値	4,000	2,000	4,000	4,000	4,000	5,000				
	実績値	1,293	1,885	1,778	4,000	4,000	5,000				
	達成率	32.3%	94.3%	44.5%	100.0%	100.0%	100.0%				